

ただ一つおかしいことがある。それはこの欠けている数字 10 及 15 を中心として、9 及び 11, 14 及び 16 に代表属数が多く、そのことは 15, 20 からの減数化の結果としての 11 及び 16 に対する平均値的な期待数よりも多くなっていることである。これは恐らく 10 及び 15 から、或る程度の実質的な減量が、新たな centromere の成立をひき起して 1 個の染色体が 2 個となって、見掛け上の増数を来たしたという過去の事実を考えねばならぬことを示していよう。即ち共に reduction ではあるが、或は腕の短縮→消失による減数（たとえば 10 から 9 を生ずる）が起こり、或はまた一方では腕に centromere の新生による実質的減量で、染色体は二つにちぎれて小さくなるが、見掛け上は増数となる（たとえば同じ 10 が 11 となる）という、二つの方法が引き起こされているのであろう。ここで考えられるのは、同じような例が多心皮類中のアケビ科 (*Lardizabalaceae*) でもみられることである。印度から支那に産する *Decaisnea* は羽状小葉の低木であるが $n=15$ である。この数は先行倍数性のものである。その花はムベに似ている。これに近い *Lardizabala* は遠く海を距てた南米のチリーに産し、1 本を減数した $n=14$ である。しかるに東亜の山地に多いアケビ (*Akebia*) は掌状葉となり、つるであるが $n=16$ である。この 16 は恐らくは上記の場合と平行した増数化によって導かれたものであると考えたい。

以上のように二通りの減少をみとめるならば、*Boroniaceae* の染色体は明らかに 5—10—15—20 の先行倍数性はすでに消失したが、それから由来した減少化の個々の例をいまだに温存する相当に古い群であり、また残りの各連はこの *Boroniaceae* と平行して、同じく $n=10$ から 9 となり、その後行倍数性で 9, 18 と発達しつつあるものということができるであろう。

この見解は、*Meliaceae* をへて多くの科と、多心皮類との系統関係をさぐる、一つの手掛りを与えるものと考えて所見をのべた次第である。（東京大学理学部植物学教室）

○日本産コンロンカ属について (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Mussaenda* in Japan.

日本産のものとしては、コンロンカ (*M. parviflora* Miquel) と、ヒロハコンロンカ (*M. shikokiana* Makino) が知られているが、近縁種との関係や、正確な分布ははっきりしていなかった。原寛氏の日本種子植物集覧(1952)でも、コンロンカの分布に台湾、中国大陸は疑問符がつけられている。又ヒロハコンロンカは日本特産とされているが、華中、華南にかけて広く分布する *M. esquirolii* Léveillé と全く同じものである。中国のものは日本のものにくらべて、やや毛が少ないが、中国でも変化があるらしく、Rehder が *M. wilsonii* Hutch. と *M. esquirolii* を合一したさいにも、両者は毛のはえかたがことなるとかいている。浙江省のものと、江西・四川省のものとは、事実毛

の点でややこととなるが、日本のものもふくめて、区別するほどの差異とはみられない。台湾にまれにみられる *M. taiwaniana* Kanehira もにたもので、初島住彦氏 (Sci. Bull. Agr. & Home Econ. Univ. Ryukyus 3: 24, 1956) はヒロハコンロンカの異名としている。コンロンカ属は種類の区別に花の形質が重要で、果実だけでは決定的なことはいえない。金平氏は果期のもので記載し、花は知られていない。鹿児島大学標本室にあるものも、花のない不完全な標本なので、大体ヒロハコンロンカと同種とみられるが保留しておく。ヒロハコンロンカはネパールから雲南に分布する *M. macraphylla* Wall. の系統を引く種類とみられる。

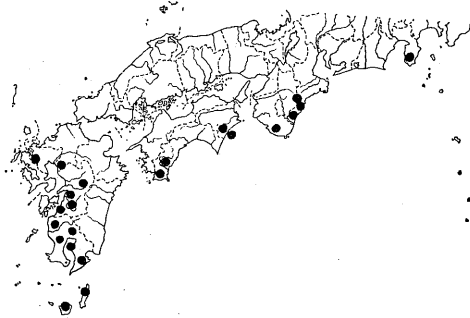
最近インドの M.A. Jayaweera (1963) が、*M. glabra* Vahl のもとに琉球の標本を引用している。琉球にはコンロンカしかみられないので、これはコンロンカを誤って混同したものと思われる。然しコンロンカは *M. glabra* と非常に近いもので、かつてはコンロンカにこの学名が使われたこともある (Hemsley, Ind. Fl. Sinensis 1: 379 1888)。又 Hutchinson は琉球のものを *M. erosa* Champ. にあてたこともある (Pl. Wils. 3: 398, 1916)。この3種類は近縁のものであるが、コンロンカは他のものにくらべて、花筒が短く、他のものの半分くらいである点でこととなった種類とみなしうる。*M. glabra* はジャバ、マラヤ、ビルマ、インド東部、タイ、アンナンに広く分布し、*M. erosa* はトンキン、海南島、広東に、*M. parviflora* が台湾以北、琉球から屋久島、種子島まで分布している。

台湾のものは *M. taihokuensis* Masamune として区別されることがある。コンロンカにくらべて花冠の毛が多いこと、花弁状のがく片があまり発達しないことが特徴とされる。花冠の毛は程度の問題で特にはっきりしたものではない。花弁状のがく片はあまり発達せず、発達しても楕円形の小さなものがつくにすぎず、琉球のもののように大きながく片をもつものはみあたらない。その他の差異はあまりないので品種が変種程度の区別のものと考えられる。

琉球西表島からヤエヤマコンロンカ (*M. pubescens* Ait. var. *yaeyamensis* Masamune) が書かれている。花の形は全くコンロンカと一致して区別がない。基準標本はみっていないが、西表島には正宗氏の図によく一致する標本があり、それらは種としてはコンロンカ *M. parviflora* とみなされるべきものである。コンロンカは葉柄や葉裏面の脈上に伏毛があるだけであるが、ヤエヤマコンロンカは伏毛の他に立った褐色の長毛が散生している点が異なる。西表島には伏毛だけのものと立毛をまじえるものと両方あり、後者は葉がやや薄く、幅のやや広い傾向がある。西表島の海近くの亜熱帯林の林縁にみられ、より高所はコンロンカでしめられているようにみえる。

台湾と華南に *M. pubescens* Ait. が分布している。コンロンカとは別の系統であるにかかわらず、しばしば混同されている。華南から *M. parviflora* として報告されたのは、*M. pubescens* を誤ったものと思われる。陳氏の中国樹木分類学 1125 頁 (1937)

にある *M. parviflora* の図は明らかに *M. pubescens* である。もっともこれは金平氏の台湾樹木誌の図をそのまま引用したので、金平氏の誤りがそのまま陳氏の著書にもち



Distribution map of *Mussaenda shikokiana* in Japan.

こまれたにすぎないが、陳氏のいう華南の *M. parviflora* は *M. pubescens*, *M. erosa*, *M. hirsutula* などを混同しているものであろう。中国大陸には *M. parviflora* は存在しない。金平氏は *M. parviflora* と *M. pubescens* の区別を、はっきり認識していなかったとみえ、*M. parviflora* として図示したものは明らかに *M. pubescens* である。後者は花筒が

長く、外面にも毛が密生し、花冠裂片は細長くとがるので容易に区別できる。

(東京大学理学部植物学教室)

Mussaenda shikokiana Makino in Bot. Mag. Tokyo **18**: 44 (1904); **25**: 156 (1911)—*M. esquirolii* Léveillé, Fl. Kouy.-Tchéou. 369 (1915) non vidi; Rehder, in Journ. Arnol. Arb. **16**: 319 (1935); Handel-Mazzetti, Symb. Sinicae **7**: 1019 (1936) Syn. nov.—*M. wilsonii* Hutchinson in Sargent, Pl. Wilson. **3**: 393 (1916).

Distr. Japan: Honsyu (Izu, Kii), Shikoku (Awa, Tosa), Kyusyu (Hizen, Higo, Satsuma, Osumi). China: Chekiang, Kiangsi, Hupeh, Fukien, Kwangtung, Kweichow, Szechuan.

Mussaenda parviflora Miquel in Ann. Mus. Lugd.-Bat. **2**: 110 (1867)—*M. glabra* Vahl sensu Jayawera in J. Arnold Arb. **44**: 262 (1963) saltem pl. ex Ryukyu.

Distr. Southern Kyushu et Ryukyu.

form. ***taihokuensis*** (Masamune) Yamazaki stat. nov.—*M. taihokuensis* Masamune in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. **29**: 79 (1939); T.S. Liu, Ill. Intr. Lign. Pl. Taiwan p. 1127 fig. 946 (1963)—*M. parviflora* Miquel sensu Matsumura in Bot Mag. Tokyo **14**: 147 (1900) pro parte, pl. formos., excl. var. *formosana*.

Petaloid sepal minor or absent. Distr. Formosa.

var. ***yaeyamensis*** (Masamune Yamazaki comb. nov.—*M. pubescens* Ait. var. *yaeyamensis* Masamune in Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa **29**: 83 (1939) et Sci. Rep. Kanazawa Univ. **4**: 83 fig. 12 (1955)—*M. yaeyamensis* Masamune in Trans. Nat. Hist. Soc. Formos. **29**: 216 (1939).

Distr. Ryukyu. Ins. Iriomote.